

古江 大樹 「2000年以降の邦ロックベストソング100からみる  
邦ロック」

要旨

この「2000年以降の邦ロックベストソング100からみる邦ロック」の研究目的は、邦ロックという用語が表す、曖昧な音楽ジャンルについて、明らかにしたいということと同時に、今後邦ロックという音楽ジャンルについての先行研究となるような、邦ロックに関して基盤となるような論文、調査とすることを目的としている。まず、邦ロックとはネットスラングに近い言葉であるため、明確に定義がされておらず、公的な場では使われづらいという性質を持っている。しかし、日常生活で音楽の話をする際に自分の体幹上の話ではあるものの、多く使われているということも特に若者の間では事実と考えている。その性質上、邦ロックという音楽性を一言で説明することは難しいが、皆の中で共通認識を持って使われている不思議な言葉であるということに興味を持ち、また明らかにするべきだと考えた。この曖昧で説明が難しい一方で、若者を中心に親しまれている音楽ジャンルについて、調査を行い、今後の研究材料のひとつ、手がかりになるということの研究目的とする。研究方法については、自身で大規模なアンケート調査を行いそのアンケート結果から様々な方法を用いて分析するというものである。そのアンケート調査がTwitter(現 X)で行った2000年以降の邦ロックベストソング100である。このアンケート調査は1人につき30曲を自身で邦ロックの名曲を30曲ランキング付けしてもらおうという仕掛けを作り、それを集計するというものだ。結果として、皆の興味を引くことに成功し、三週間の投票期間の中で250人もの票が集まり、それなりに堅いランキングを制作することができた。また、2000年以降と付けた理由については、邦楽ロックと邦ロックを区別しない層が一定数存在するということを、事前に把握していたため、邦ロックは近年の音楽であるという自分の考えに準拠し、このような括りを設け、邦楽ロックと邦ロックを区別しない層にも投票できるようにしたためである。研究結果としては、まず1位から100位まで2000年以降の邦

ロックベストソング 100 のランキングを作成することができたということがひとつ。また、それに基づいたアーティスト別ランキングを作成することができた。そして、そのランキング上位 5 曲が飛び抜けてポイント数が高かったためその後、それら楽曲に関して歌詞分析を行い、楽曲の持つ特徴を分析することが出来た。また、邦ロックに関して「邦ロック好きと繋がりたい」というハッシュタグを元に、どのようなアーティストが記載されているか。という別の調査も行い、当ランキングとの比較を行った。こちらの調査では当ランキングで登場したアーティストとはかなり差異があった。また、2012年に行われた「邦バンド選手権」というランキング企画との比較も行い、どのような特徴があるのかを分析した。また、NEWS ポストセブンに邦ロックに関する記事が珍しくも存在したため、こちらでも分析した。この記事内で扱われていたアーティストはメジャーよりのものが多く、こちらも他のランキングとは差異があるものとなった。これらの調査から浮かび上がる邦ロック像について、独自の視点からその可能性について考えていった。まず邦ロックとフェス文化の関連性に関する視点である。邦ロックはフェス文化との関わりが深く、音楽性にもそれが現れている楽曲が多く存在しているということだ。また、音楽聴取媒体の変化という視点だ。音楽が持ち運べるものになってから、日常に寄り添ったような内容が多くなったという視点である。そしてプロデューサーとの関係からの分析、ヒットチャートとの比較によって、メジャーシーンとの関わりについても分析を行った。その結果メジャーシーンにロックバンドの音楽は入っているものの、それら楽曲はこのランキングには入ってこないことがわかった。これらの調査を元に邦ロックとは何かを調査した。

研究目的であげた邦ロックでという用語が指し示す音楽ジャンルが、どのようなものなのか、という問いに対し、邦ロックは一定の範囲を示すような広がりを持つジャンル名であり、それと同時に人によって用語の解釈が違うという結論に落ち着いた。また、このランキング企画自体が新規性のあるものであるため、今後邦ロックを研究する際に基盤となるような調査結果になったと考えている。